

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

鳥取大学・島根大学

がんプロシンポジウム

「がん医療における地域貢献とは」

鳥取大学医学部 婦人科腫瘍科 教授 紀川 純三

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」は、それぞれの大学が、個性や特色・得意分野を活かしながら相互に連携・補完して、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的とし、同時に育成した専門職への再教育の場を提供し、地域医療への貢献を目指しています。がん医療の地域貢献は本プランの重要な課題のひとつです。



平成24年12月13日に鳥取大学と島根大学との共同企画シンポジウム「がん医療における地域貢献とは」を開催しました。鳥取大学医学部附属病院がんセンター内のキャンサーボード室を中継点として、「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」に相応しく、7つの連携大学と鳥取県のがん診療連携拠点病院をTV会議システムで結んで行いました。

12月13日(木) 開催



「がん医療における地域貢献とは」



当日は、岩手医科大学から、杉山教授、柏葉講師、渡辺課長補佐、川守課員の4名、順天堂大学から、樋野教授、齊藤教授、松岡准教授の3名、島根大学から、磯部教授、中谷教授、猪俣教授、須谷講師、津端助教、棟石課長補佐、大島係長、岸田事務員、竹内事務員の9名の方々に米子へ来て頂きました。鳥取大学からは、井藤副学長をはじめ多くの参加があり、急遽椅子の追加が必要でした。

シンポジウムに先立ち、鳥取大学の豊島良太医学部長とTV会議中継で順天堂大学から高橋和久教授のご挨拶がありました。まず、鳥取大学の廣岡保明教授が「山陰のがん医療に関わるコメディカル育成」の取り組みについて話され、島根大学の磯部威教授は「島根県地域医療の現状とがん専門医育成」について講演されました。最後に、岩手医科大学の柏葉匡寛講師は「広域医療圏におけるがん医療均てん化のアプローチと展望」と題して、岩手医科大学の取り組みについて述べられました。その後、予定時間を過ぎる熱心な討議が行われました。

本シンポジウムでは、地方のがん医療体制の問題点が浮き彫りとなり、がん医療の集約化と均てん化との調整の困難さが指摘されました。がん医療人の地域偏在の解消と地域への定着化の取り組みを行うためには、首都圏と地方とをTV会議システム等で結び、医師やコメディカルの再教育を充実させることが必要であり、今後コンソーシアムの課題として取り組むことが決まりました。なお、本シンポジウムは3eRec systemで保存され、いつでもwebで見ることができます。シンポジウム終了後には、駅前のホテルで情報交換会が行われ、楽しく語り合うことができました。順天堂大学の皆様は米子空港21時50分発の最終便でお帰りになりました。本当にありがとうございました。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランを核とした地域がん診療ネットワークを強化することにより、質の高いがん医療に関する情報の共有化を通して、がん医療に携わる人材の育成を効率よく行い、がん医療の地域貢献に繋がりたいと思います。参加して頂いた皆様に感謝いたします。



1月30日(水) 東京大学 山上会館にて、

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 合同フォーラム

が開催され、本グループも参加しました。フォーラムでは、FD講習会とポスターセッションが行われました。

FD講習会について

順天堂大学大学院 医学研究科 緩和医療学 先任准教授 奥野 滋子

平成25年1月30日に平成24年度文部科学省全国がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン合同フォーラム「大学院教育につながる医学部教育」が開催され、47大学より104名が参加した。最初に大阪大学の松浦成昭氏は、現時点で今だ曖昧な「緩和ケア」の定義を明確化し共通理解する必要性を示された。基調講演で大阪大学大学院の恒藤暁氏は、「時に癒し、しばしば苦痛を和らげ、常に慰める」ことが医療の使命であり、緩和ケアの真髄は“寄り添い”であること、そして寄り添う医療者を育成するために whole person care program を医学教育に導入することの意義について語った。昭和大学の高宮有介氏は医学教育の現状を示し、緩和ケア(医療)に関する講義コマ数は全国的に少なく、十分な緩和ケア教育が行われていないことを明らかにした。自治医科大学、京都府立医科大学、東京大学医科学研究所附属病院のシラバスと各施設の工夫が紹介され、その後医学部第4学年を対象とした3コマ、5コマ、12コマの講義を想定して、シラバスを作成するグループワークを行った。コマ数が少ないと緩和ケア概論の座学に重点が置かれ、臨床実習・グループワーク・ロールプレイを盛り込むことが困難となり、講義形式だけでも70分で13コマがゆとりある講義ではないかとされた。緩和ケア教育はどの大学も講義コマ数の確保と教育方法について苦心しているところであり、全国で統一したシラバスを作成し、より質の高い緩和ケア教育を実践できるように努力していかねばならない。



Relief Care

本グループ発表ポスター

平成24年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン

順天堂大学・鳥根大学・鳥取大学・岩手医科大学・東京理科大学・明治医科大学・立教大学

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン

本プランは、順天堂大学を主幹校とし、連携7大学「中央」と「地域」をICTと循環型人材交流で結び、それぞれの個性や特色を活かしながら相互に連携構築を通じて、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで前駆するがん研究者・医療人の養成を目的としています。

具体的には(1)順天堂大学に先進的がん医療開発センターを整備し、これを拠点とし、(2)東京理科大学・明治医科大学・立教大学との共同機関として研究の体制を整備し、(3)鳥根大学・鳥取大学、岩手医科大学の連携するコンソーシアムと理工学系大学をICTと人材交流で繋ぎ、臨床・研究・教育に一気に飛躍をあげる平成がん医療維新をひきおこしたいと考えています。

順天堂大学 医学研究科
先進的がん医療開発センター
地域がん医療連携推進センター

鳥根大学 医学研究科
がん医療連携推進センター
がん医療連携推進センター

鳥取大学 医学研究科
がん医療連携推進センター
がん医療連携推進センター

岩手医科大学 医学研究科
がん医療連携推進センター
がん医療連携推進センター

東京理科大学 医学研究科
がん医療連携推進センター
がん医療連携推進センター

明治医科大学 医学研究科
がん医療連携推進センター
がん医療連携推進センター

立教大学 医学研究科
がん医療連携推進センター
がん医療連携推進センター

平成24年度の取り組み「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」広報活動

シンポジウム

- キックオフシンポジウム(8月)主催:順天堂大学
- がんプロフェッショナル(11月)主催:東京理科大学
- 「緩和ケアを先駆がん医療に活かす」
- がんプロフェッショナル(12月)主催:鳥取大学
- 「がん医療における地域貢献とは」
- がんプロフェッショナル(1月)主催:岩手医科大学
- 「地域を支えるがん医療教育」

各大学企画講演

- 順天堂大学大学院 特別講演(10月)
- 東京理科大学 特別講演(10月)
- 明治医科大学 特別講演(11月)
- 鳥取大学 特別講演(11月)
- 岩手医科大学 特別講演(12月)
- 順天堂大学 大学院特別講演(12月)
- 鳥根大学 特別講演(1月)
- 立教大学 特別講演(1月)

ポスターセッション

本グループでは活動報告の一環としてHPを作成、運営を行う予定です。ここには紹介しきれない詳細な紹介やイベント情報を掲載しております。

【HPのURL】
<http://www.rinsen.or.jp/ndes/index>





情報 コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- 岩手医科大学 がんプロシンポジウム
テーマ「地域を支えるがん医療教育」
2013年1月19日(土) 13:00～ ホテル東日本 鳳凰の間
- 順天堂大学 国際シンポジウム(日英同時通訳)
テーマ「先導的国際がん研究の動向
アスベスト暴露による中皮腫 ～環境発がんのリスク予知と予防への新しい展開～」
2013年2月28日(木) 13:00～16:30 順天堂大学 センチュリータワー 8階 801教室

今後のスケジュール

- 順天堂大学 チーム研究合宿
テーマ「多施設・多職種チームで、研究プロトコルを作成し、実践しよう！」
2013年3月2日(土)～3日(日) 1泊2日 晴海グランドホテル
- 順天堂大学 市民公開シンポジウム
テーマ「対話学・対話カフェの重要性」
2013年3月11日(月) 13:00～15:30 順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

編集後記

2月10日は、吉田富三(1903-1973)の誕生日であった。思えば、2003年「吉田富三生誕100周年」を全国で展開したのが記憶に新しい。その貴重な経験が、『がん哲学』(2004年)へと導かれた。吉田富三の当時の命題は、「今日の命題でもあり、将来の命題でもある」。筆者は、第99回日本病理学会総会(2010年)を会長として主宰する機会が与えられた。テーマは「広々とした病理学～深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静～」であった。恩師である菅野晴夫先生(癌研顧問)による『病理の百年を振り返って』の特別講演がなされた。「現在を的確に認識し未来を志向する」にあたって、如何に「歴史的な財産」の学びが必要不可欠であるのかを、実感する時であった。「病理学」を極めることは、「森を見て木の皮まで見る」ことであり、マクロからミクロまでの手順を踏んだ「丁寧な大局観」を獲得する「厳粛な訓練」の場でもある。「医師は生涯書生」・「医師は社会の優越者ではない」・「医業には自己犠牲が伴う」(吉田富三)は、まさに「医師の3ヶ条」であろう。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>